

け  
い  
せ  
き

あ  
い  
せ  
き

機に臨んで譲ることなく、  
事に当たつて再び思う

釈宗演

明治・大正期の臨済僧、釈宗演の言葉です。

「大事な時は逃げる」となく、

今一度思慮深くこと当たりなさい。」という意味です。

「任に当たつて、他に譲りがたし」

(私に与えられた使命【修行】は、他の誰にも替わることはできない。  
そこから逃げずに真正面からぶつかるしかない) という禅語があります。

与えられた仕事をこなすのは当たり前の事です。

大切なことは、「どれだけ思慮深く事に当たれるか」ということです。

「やらされている」と思わない事。たとえ自分の意図しなかったことでも  
やるとなつたら、ただやるのではなく、よりよい結果を目指す…  
これが思慮深くの意味するところでしょう。

## 十三仏信仰 (二)

### 不動明王

萬徳院釈迦寺

住職 竹田 明秀

街中で警察官を見かけると、何もしていないのにびくびくし、拳टカーを喰かけると、安全運転をしているのに、何が違反をしているのではないかと不安に思う人。あなたもその一人ではありますか？ 警察官は、市民の安全を守ってくれる正義の味方のはずなのに、いつしか自分を捕まえるかもしれない怖い存在として捉えているようです。

人が亡くなり、初めての追善供養である初七日を行つていただきている仏様が不動明王様です。右手に降魔の剣を持ち、左手に縄索という悪人を捕らえる紐を持つ、忿怒の形相の仏様です。

不動明王様なのです。つまり、不動明王様は、裁判官であり弁護士でもあるのです。私たちがこの世で犯した様々な罪を裁くとともに、弁護もしてくれるのです。

私達がこの世でしつかりと善徳を積み眞面目に生きてきたのなら恐れることなどありません。不動明王様は私たちの強力な味方として守ってくれます。

しかし、少しでも後ろめたいことがあるのなら、その罪の重さによつてしつかりと罰せられます。不動明王様を怖い存在としてではなく、私たちを守つてくださる力強い存在として感じられるよう、誠実に生きていこうことが必要なのです。

私達が不動明王様を「お不動さん」と親しみを込めて言つようになつて七日目にあります。その時の裁判官が、十王経に唱えられる十王の一人、秦広王。不動明王は弁護士と言われています。しかし、実は秦広王の本地仏(本当の姿)は不

去る、平成二十二年六月十四日

十五日にかけて、第9回「坂東

三十三観音札所巡礼の旅」が無事に執り行われました。今回は結願

ということでしたが、ぐずついた雨模様。しかし二日目は見事な快晴。觀音様の御加護かな・・・と思いつつ、總勢六十二名、大型バス2台で和やかに三十番高藏寺・

三十一番笠森寺・三十二番清水寺・三十三番那古寺を巡つて参りました。(今回は誕生寺のお朝次にも随喜させて頂きましたよー)

参加された皆様の感想を抜粋しました。「お見下さないでください。

●「お寺の方の特別な御計らいにより満願させて頂きました。参加して本当に良かつたと思っております。」(遠藤佐和子様)

●「初めての参加でしたが楽しかつた、結願したいと思った。講話を聞かせて頂きこれから老後を迎えるにあたり光が見えた気がしました。」(飯田富美子様)

●「皆様それぞれ、故人の思い出をしのびながらの旅、おとなりさんと楽しみながら、最後の結願を

「牛に引かれて善光寺参り」「一生に一度は参いれ善光寺」と語われるほど人気のあるお寺。

善光寺には本堂はじめ境内にも見どころがあります。歴史ある善光寺には、語り継がれる話や秘話が盛りだくさんです。是非一緒にお参り致しましょう！ 皆様のご参加心よりお待ちしております。



## 巡礼記

「牛に引かれて善光寺参り」「一生に一度は参いれ善光寺」と語られるほど人気のあるお寺。

善光寺には本堂はじめ境内にも見どころがあります。歴史ある善光寺には、語り継がれる話や秘話が盛りだくさんです。是非一緒にお参り致しましょう！ 皆様のご参加心よりお待ちしております。

さて、次回は番外編です。十一月十五日(日)長野県善光寺、北向觀音へ日帰りで参ります。昔から、

# お釈迦さまの 「中道」の教え

お釈迦さまの「中道」



それが知りたい  
読者の広場 Q & A

仏事の色々

◎仏事その四

お塔婆の教えるもの

墓前での読経に回うど、しばしば「墓石の後ろに

建つてあるあの板は何ですか」と尋ねられます。それはお塔婆で、正しくは平塔婆(そとのば)といいます。卒塔婆とは、インド語のストゥーパでお釈迦さまの遺骨を納めたお墓をいいます。元来、土を丸く盛り上げた形でしたが、日本では三重塔、五重塔といった建造物となつて、その意義が伝えられています。

お塔婆をよく見ると、切り込みがいくつかあります。一番下は方形で、一番目は円、次が三重、その上が半円、一番上が宝珠形となっています。つまりお塔婆は五つの形の石を積み重ねた仏塔・五輪塔を簡略化したもので、その形は、下から大地・水・火・風・大空を表現し、その五つで宇宙全体を表わします。

地などのこれら五つは、私たち万物の生命を育て

人は「煩惱」によって「業」を起こし、「業」によって「苦しみ」を招く。「煩惱」と「業」と「苦しみ」の三つの車輪で果てしなく回り続ける。

これは修行だけではなく、人生の何事にも通じる心得であります。

たとえば、車の運転でもアクセルばかり踏んでいては、ついに事故を起します。ブレーキとアクセルのバランスで安全運転が可能なのです。

「中道」は中途半端の道ではありません。それは、ゆつたらとした道。その道を、おおらかに歩くのが中道なのです。

秋のバスツアー巡礼の旅参加者募集  
札所 / 善光寺・北向観音  
日時 / 十一月十五日(日)帰り  
参加費 / 一万一千円  
切 / 十一月五日(金)必着  
詳しいお問い合わせは  
萬德院釈迦寺寺務所まで  
☎ 04(457)5400  
※別紙にてお申込用紙を同封しています。御覧下さいませ。

ひとりごと

「欲」

欲は木を枯らすつる草、  
人の心に巻きつき人の心の中  
の汁を吸い取る。

欲は邪鬼の投げた「餓」、  
人はこれにつられて悪事の道  
に沈む。

人は「煩惱」によって「業」  
を起こし、「業」によって「苦  
しみ」を招く。

「煩惱」と「業」と「苦しみ」  
の三つの車輪で果てしなく回  
り続ける。

愚かな動物である。



## お寺で学ぼう

今年も夏休み恒例の「お寺で学ぼう・お坊さん一泊体験」を七月二十五・二十六日の一泊二日の日程で行われました。

六度目となる今年は、一年生、低学年の参加が半数あり、高学年の

お兄さま・お姉さまとともに、例年にもまして盛況な賑やかな年と

なりました。  
「わびっ子大法要」「危除星祭」の実行における練習を中心として、水団作り、護摩修行や瞑想修行など張りつめた中にも初体験の楽しい時間を過ごしました。

加えて、みんなには、各自の将来の願いをこめた絵馬を奉納していただきました。厳しい暑さの中、事故無く子供たちに思い出をプレゼントできることには喜びにたえません。

今年のスローガン「手を合わせて感謝の心」をこころで」を子供たちと共に僧侶で共有出来たことは互いのこころを豊かに満たしてくれた最高の時間でした。

保護者の皆様、大切な子供さんをお預け下さり、誠にありがとうございました。



### 『星祭り大法要』

平成三十三年十二月八日㈬

### 「危除星祭」のご案内

◎坐禅会（参加費 無料）  
日々の雜踏から離れ

イスを使った「らくらく坐禅」もあります。

星祭りは、仏教で災いを除くために個人個人の当年星（とうねんじゆう）と本命星（ほんみょうじゅう）をまつる祭のことです。

星供養（ほしょよう）、星供（ほしくとも申します。一年ごとに巡ってくる運命を左右する星を供養し、個人の一年間の幸福を祈り、災いを除く祭です。来年が良い年でありますように）。

本年より萬徳院釈迦寺（船橋市小室町）、稻毛別院（千葉市稻毛区）の二ヶ寺にて同日開催致します。

本年は、小室・稻毛とも十九時より開催いたします。詳細は「星まつりのご案内」をご覧ください。

申し込み方法は、同封の申込書に必要事項を記入し、ご郵送頂くと共に郵便振込用紙にて代金をお振込下さいます。お願い致します。

### 月例行事のご案内

◎月例法要（星供養お布施五千円）

個人様、ご先祖様追善のご法要と御導師様の法話がございます。

●十月十七日㈯午後二時より大本堂  
●十一月十九日㈰午後二時より大本堂

### 坐禅会・写経会のご案内

【小室・稻毛同時開催】

○坐禅会（参加費 無料）  
日々の雜踏から離れ

イスを使った「らくらく坐禅」もあります。

●十月十九日㈫午前八時より  
●十一月九日㈫午前八時より  
●十一月二十日㈫午前八時より

◎写経会（納経代 お一人様千円）  
・仏様の教えを全身でいたぐる

★お気軽にご参加ください。  
★写経のコースもござります。

●十月十九日㈫午前九時より  
●十一月九日㈫午前九時より  
●十一月二十日㈫午前九時より

★【星祭り】「危除星祭」大法要  
平成三十三年十一月八日㈬  
【修正会】大法要  
平成三十三年元日 十時より